

その四「子ども食堂 こども夢くらぶ」

訪 問 日 平成30年12月8日（土）
 訪問場所 白鷺団地内（しらさぎ夢テラス及び周辺）
 主 催 者 こども夢くらぶ
 訪 問 者 植木 聡委員、佐伯 知子委員（紹介者として、田間 泰子委員）

■ 概 要

「子ども食堂 こども夢くらぶ」とは

○「子ども食堂 こども夢くらぶ」は堺市東区ではじめての子ども食堂です。白鷺校区を中心として、校区の子どもたちを対象にしらさぎ夢テラスなどで月2回（第2・4土曜日）活動を行っています。

○活動内容は次のようになっています。

1. 昼食の提供
2. 遊びの場の提供
3. 学習支援

○大まかな流れは次のようになっています。

1. 子どもたちが集まり、各々が老人クラブの集会所や広場において自由に勉強や遊びを行う
2. 食堂へ戻り、2グループに分かれて、食事をする



しらさぎ夢テラスの外観です。前には屋根があるので雨の日でも遊ぶことができます。



カレー店元店長がレシピを監修したおいしいカレーです。子どもたちの栄養バランスを考え、肉と野菜がたっぷり入ったカレーをメニューにしています。

「こども夢くらぶ」とは

○こども夢くらぶは、住民有志のボランティア団体であり、子ども食堂の運営を行っています。毎月第2・4土曜日の11:00～14:00白鷺団地内(しらさぎ夢テラス及び周辺)で白鷺小学校区内児童およびその保護者を対象として運営しています。

森川さんのご友人が作成した看板です。食堂に飾られており、手作りの温かさがあり、アットホームな雰囲気になっていました。



「キーパーソン」からお話を伺いました

森川 洋子さん (こども夢くらぶ代表)

○もともとはケアマネージャーをされていて、仕事を辞めてから自分の住む町で「何か地域に貢献したい」という思いから、子ども食堂を始められました。子ども食堂の運営をする中で子どもたちの変化や成長に気づくことがあり、嬉しくやりがいにもなっているとお話を伺いました。



ボランティアの方々です。みなさん、やりがいを持って運営されていました。

予算について

- 堺市子ども食堂開設支援補助金より20万円の補助
- 企業等から約30万円の補助
- 参加費用は子ども無料、保護者・関係者は300円

■ 「堺が考える社会教育」の観点からみると

ともに学んだり、教えたりするためには

堺市社会教育委員会議提言書 13頁

○一緒に遊び、食事をとるなどさまざまな年代、立場の人々が触れあっており新たな学びのきっかけとなっていました。

例えばこんなこと【気づく】

○子どもたちの遊びの中に、地面をキャンパスとしたチョークでのお絵かきがありました。子ども食堂の開設当初は、乱暴な言葉の落書きがあったようですが、今は見ているだけで楽しくなるような落書きばかりでした。家庭や学校以外に子どもたちの居場所があり、遊びや勉強をみんなで一緒にできる環境というのは、子どもたちの健全育成に役立っていると思われまます。

例えばこんなこと【分かちあう】

○子ども食堂は堺市で36カ所（さかい子ども食堂ネットワーク平成30年8月発表）、全国では2286カ所（こども食堂安心・安全向上委員会平成30年8月加入団体数）開設されています。子ども食堂の形は地域や場所によってさまざまですが、子ども食堂ネットワークにより情報を分かちあっています。また、2カ月に1回程度、情報交換会を行い、お互いの意識を共有することで継続した運営が行われていました。

みんなでカレーを食べる様子。お互いの顔を見ながらの食事は本当に楽しそうで、子どもたちも大人も笑顔の絶えない食事になっていました。



素敵な絵が描かれており、周囲を明るくしていました。



堺らしさ

堺市社会教育委員会議提言書 17頁

○食事を提供するだけでなく昔遊びを一緒にしたり季節のイベントを行うなど、さまざまな工夫がありました。

例えばこんなこと【国際】

○白鷺校区内という狭い範囲での活動ですが、子どもたちと高齢者との「つながり」を作るきっかけとなっていました。

例えばこんなこと【人権】

○子ども食堂の利用希望者に申込書を記載してもらい、何かあれば連絡が取れる形をとっています。子どもたちの所在が分かることで、子ども食堂側はもちろん、保護者にとっても安心して子どもたちを預けることにつながっていました。



子どもたちは折り紙や、あやとりなどの遊びをボランティアの方から教えてもらっていました。文化の継承を感じる一場面であり、子どもたちの新たな発見になっていました。

さまざまな「つながり」

堺市社会教育委員会議提言書 21頁

○普段は接することの少ない地域の高齢者や大学生、子どもの中に食事や遊びを通じて世代を越えた「つながり」が生まれていました。

例えばこんなこと【担い手】

○地域の高齢者、また、大阪府立大学のボランティアセンターから大学生のボランティアが来ることで、さまざまな年齢の人が子どもを中心につながっていました。

○白鷺団地内にあるコミュニティ施設「しらさぎ夢テラス」で別の地域的活動をしていた民生委員2名もスタッフとして加わっており、老人クラブなど他の団体との「つながり」も作りやすくなっています。

○「しらさぎ夢テラス」の常駐スタッフ1名も施設・設備面の管理という意味で重要な担い手となっています。

○運営は森川さんが中心であるものの、話し合いが重視されており、スタッフそれぞれの意見が活動に反映されており、それが活動のやりがいにもなっているのではとおっしゃっていました。

例えばこんなこと【場所・空間】

○白鷺団地内の商業施設の一角のため、車の往来がなく子どもたちがのびのびと遊べるスペースが確保されており、隣の老人会集会所を借りて学習支援を行っています。

○「しらさぎ夢テラス」は老人クラブの活動等が行われている場であり、地域の人々にも馴染みの場です。すでによく知られた場所で実施されていることが個人宅で行われる場合より参加しやすく、参加を後押しする要因にもなっているようです。

○同施設には、学習や食事スペースの他、建物前に子どもたちが十分に遊べるスペースがあります。車などの往来もないため、子どもたちは球技をしたり地面に落書きをしたりとのびのびと自由に過ごすことができます。

○同施設での活動が、同じ場所で他の活動をしている人たち（老人クラブのメンバーなど）との「つながり」も創出しています。

例えばこんなこと【物事】

○10時より1時間は子どもたちが各々持参した宿題をし、その際、元／現教員であるボランティアや大学生ボランティアが中心となって関わっています。

○11時半からスペースの都合上、2グループに分かれて昼食をとりますが、異年齢の子ども、スタッフ、大学生ボランティアが一緒になって定番のカレーを食べています。

○昼食後、14時まで子どもたちは思い思いの遊びをします。そこでも、さまざまな年齢の子ども同士、スタッフ、大学生ボランティアが交流しています。

○子ども食堂というと、子どもたちへの食事に関することだけに関係があると思っていましたが、地域とのコミュニケーションを通じて健全育成に役立っています。

広い団地内の敷地でのびのびと遊んでいました。地域の住民たちが温かい目で見ており、安心して遊ぶことができます。



「つながり」の質

堺市社会教育委員会議提言書 24頁

○子ども食堂の運営について自由に意見を述べあう場を設け、全員がともに学んだり、教えあうことで「つながり」を深めていました。

例えばこんなこと【違いを認めあう「つながり」】

○小学生を中心とする子どもたちが、学年の隔てなく、ともに学びあい、和気あいあいと食事をとり、遊ぶ姿が見られました。また、子ども同士だけでなく、大学生ボランティアやスタッフ同士の交流もとても自然なものであり、同じ時間と空間を共有していました。こうした交流は、子ども食堂の時間・空間だけのものではなく、日常の場面にもつながっているようで、子どもたちは偶然出会った時も声をかけて来るようであり、時には、スタッフが連れていた孫と遊んだりすることもあるとのことでした。

○ボランティア同士でも考え方や方針の違いがあります。そのため、せっかく来てくれたボランティアが離れてしまうこともあるとのこと。このような活動は、自分が出来る時に出来ることをやるということが一番重要であり、相手を認めることが円滑に活動できる要因だと思いました。

例えばこんなこと【外に開かれている「つながり」】

○森川さんを中心に堺市内の子ども食堂スタッフとの「つながり」もあり、運営のノウハウなどの情報交流を行っています。

例えばこんなこと【自ら進んでいく「つながり」】

○これまでのキャリアやネットワークを生かす形ではなく、森川さんの純粋な「何か地域に貢献したい」という思いから活動がスタートしている点が特徴的です。地元のスーパーで出会った人や知り合いなど、地道に賛同者を増やし、日々試行錯誤を繰り返しながら活動を進化させています。

■ つながるといいな

○すでに地域やさまざまな団体とつながっています。可能であれば、大学生ボランティアだけでなく、中高生のボランティアも混ざること、子どもたちの中に新たな発見が生まれることを期待します。

■ 訪問して感じたこと

○はじめに、代表の森川さんからいろいろとお話を伺い、子ども食堂への熱い思いを感じました。また、子ども食堂を開設するにあたり、何よりも大切なことは人との「つながり」であると改めて思いました。こちらの子ども食堂では、食事はカレーライスのみということですが、このカレーライスはもともとカレーショップを経営していた知人がレシピを監修しているのです、味はお墨付きとのこと。実際に頂きましたが、確かに美味しいカレーライスでした。また、この知人からカレーライスを作るための資材や食器なども提供していただいたということです。子ども食堂の運営では、意外と人間関係が大変だと言われていましたが、今はこれが生きがいであり、もっと子ども食堂を増やしていきたいとも言われた森川さんからは、まだまだ夢に向かって頑張るエネルギーを感じました。ただ、子ども食堂に対する保護者の考えとして、利用するのは「貧困家庭」だからだ、という認識があるようです。そのあたりをもっと情報発信して、家庭や学校以外の子どもたちの居場所として、子どもたちがもっと自由に遊べる環境を提供できればと思います。そのためには、もっと地域との連携を強化して、諸団体からの協力が必要なのかもしれません。子どもたちを育てていく環境としては、とても良いところだと思いました。これからの活躍に期待しています。

○特別なノウハウがあるわけではなく、代表の森川さんをはじめとするスタッフのみなさんの純粋な思いや地道な試行錯誤の積み重ねによって活動が展開されているところが印象的でした。他方で、「しらすぎ夢テラス」というすでに地域に根づいた場が拠点となっていることが、信頼度を高めたり「つながり」を広げたり、活動の大きな強みになっているように感じました。

■ 主催者からのメッセージ

社会教育って？

○私たちの運営する子ども食堂は子どもの居場所であると同時に、ボランティアスタッフの居場所となり生きがいともなっています。普段の生活や活動及び家庭や地域で子どもを育て、大人もともに成長していくことが社会教育だと思います。

「つながり」を広げるって？

○子どもを中心としてボランティアや地域の方々、さまざまな団体との「つながり」ができました。現在、さかい子ども食堂ネットワークを通じて他の子ども食堂との「つながり」を広げ、深めていっています。子ども食堂同士で運営上の課題などを共有し、より良い継続した運営を目標にしています。

訪問してみたいかがですか？

○北区の「つなぐば」や東区の「しらすぎおうちごはん」などの子ども食堂を訪問してはいかがでしょう。さまざまな工夫が盛り込まれた子ども食堂であり、おすすめです。

■ 社会教育委員会議の活動や提言書については、堺市ホームページで公開しています。



「堺市」 「社会教育」

検索

